

# ヤコブの書

## 第一章

一 神および主イエス・キリストの僕ヤコブ、散り居る十二の族の平安を祈る。

二 わが兄弟よ、なんぢら各様の試練に遭ふとき、只管これを歡喜とせよ。三 そは汝らの信仰の

四 験は、忍耐を生ずるを知らばなり。四 忍耐をして全き活動をなさしめよ。これ汝らが全く、かつ備りて缺くる所

なからん爲なり。

五 汝らの中もし智慧の缺くる者あらば、咎むることなく、また惜む事なく、凡ての人に與ふる神に求むべ

六 し、然らば與へられん。六 但し疑ふことなく、信仰をもて求むべし。疑ふ者は、風に動かされて翻へる海の波の

七 ときなり。七 斯る人は、主より何物をも受くと思ふな。八 斯る人は二心にして、凡てその歩むところの途定り

なし。

九 卑き兄弟は、おのが高くせられたるを喜べ。一〇 富める者は、おのが卑くせられたるを喜べ。そは草の花の

二 ごとく、過ぎゆくべければなり。二 日出で熱き風吹きて草を枯らせば、花落ちてその麗しき姿ほろぶ。富める者

もまた斯のごとく、その途の半にして已まづ消失せん。

イ 羅一・一 腓一・一 六・七  
 多一・一 彼後一・一 六 徒一五・二三を見よ  
 彼前一・六 (雅一)  
 口 徒二・二七 及び 一 二  
 太一三・五五を見よ 太五・二二 (雅一)  
 八約七・三五を見よ 一 二、五・一一  
 二 路二二・三〇 徒二 七 (來六・一一)  
 六 七 徒一五・二三を見よ  
 又 路二一・一九を見よ  
 ル (雅三・二 太五・四 八 西四・一一 撒 前四・二二)  
 八 西四・二二 撒 前四・二二  
 七 王上三・九 一 三 二 八 一 三 一  
 二 八 一 三 一 二 八 一 三 一  
 レ 雅四・八  
 詩 一〇二・四 一一  
 二 路六・二二 彼前 三・一四、四・一四  
 井 哥前二・九、八・三  
 ノ 雅二・五 出二〇・六  
 オ 哥前九・二五を見よ  
 ク (創二二・一)  
 ヤ (伯一五・三五 詩七 二 路六・二二 彼前 三・一四、四・一四 井 哥前二・九、八・三 ノ 雅二・五 出二〇・六 オ 哥前九・二五を見よ ク (創二二・一) ヤ (伯一五・三五 詩七

一四 賽五九・四  
 一〇 德一・一五  
 一六 雅一・一六を見よ  
 一七 彼前二・一  
 一八 雅四・二一  
 一九 詩一四六・九 賽一  
 二〇 雅三・二二 詩三九・一、一四一、  
 二一 又後二・二〇 雅四  
 二二 彼後一・四  
 二三 約登二・一五  
 二四 雅二・二二 加三  
 二五 雅二・二二 加三  
 二六 雅二・二二 加三  
 二七 雅二・二二 加三  
 二八 雅二・二二 加三  
 二九 雅二・二二 加三  
 三〇 雅二・二二 加三  
 三一 雅二・二二 加三  
 三二 雅二・二二 加三  
 三三 雅二・二二 加三  
 三四 雅二・二二 加三  
 三五 雅二・二二 加三  
 三六 雅二・二二 加三  
 三七 雅二・二二 加三  
 三八 雅二・二二 加三  
 三九 雅二・二二 加三  
 四〇 雅二・二二 加三  
 四一 雅二・二二 加三  
 四二 雅二・二二 加三  
 四三 雅二・二二 加三  
 四四 雅二・二二 加三  
 四五 雅二・二二 加三  
 四六 雅二・二二 加三  
 四七 雅二・二二 加三  
 四八 雅二・二二 加三  
 四九 雅二・二二 加三  
 五〇 雅二・二二 加三  
 五一 雅二・二二 加三  
 五二 雅二・二二 加三  
 五三 雅二・二二 加三  
 五四 雅二・二二 加三  
 五五 雅二・二二 加三  
 五六 雅二・二二 加三  
 五七 雅二・二二 加三  
 五八 雅二・二二 加三  
 五九 雅二・二二 加三  
 六〇 雅二・二二 加三  
 六一 雅二・二二 加三  
 六二 雅二・二二 加三  
 六三 雅二・二二 加三  
 六四 雅二・二二 加三  
 六五 雅二・二二 加三  
 六六 雅二・二二 加三  
 六七 雅二・二二 加三  
 六八 雅二・二二 加三  
 六九 雅二・二二 加三  
 七〇 雅二・二二 加三  
 七一 雅二・二二 加三  
 七二 雅二・二二 加三  
 七三 雅二・二二 加三  
 七四 雅二・二二 加三  
 七五 雅二・二二 加三  
 七六 雅二・二二 加三  
 七七 雅二・二二 加三  
 七八 雅二・二二 加三  
 七九 雅二・二二 加三  
 八〇 雅二・二二 加三  
 八一 雅二・二二 加三  
 八二 雅二・二二 加三  
 八三 雅二・二二 加三  
 八四 雅二・二二 加三  
 八五 雅二・二二 加三  
 八六 雅二・二二 加三  
 八七 雅二・二二 加三  
 八八 雅二・二二 加三  
 八九 雅二・二二 加三  
 九〇 雅二・二二 加三  
 九一 雅二・二二 加三  
 九二 雅二・二二 加三  
 九三 雅二・二二 加三  
 九四 雅二・二二 加三  
 九五 雅二・二二 加三  
 九六 雅二・二二 加三  
 九七 雅二・二二 加三  
 九八 雅二・二二 加三  
 九九 雅二・二二 加三  
 一〇〇 雅二・二二 加三

二二 試鍊に耐ふる者は幸福なり、之を善しとせらるる時は、主のおのれを愛する者に約束し給ひし、生命の冠冕を受くべければなり。二三 人誘はるるとき『神われを誘ひたまふ』と言ふな、神は悪に誘はれ給はず、又みづから人を誘ひ給ふことなし。二四 人の誘はるるは己の慾に引かれて惑さるるなり。二五 慾孕みて罪を生み、罪成りて死を生む。二六 わが愛する兄弟よ、自ら欺くな。二七 凡ての善き賜物と凡ての全き賜物とは、上より、もろもろの光の父より降るなり。父は變ることなく、また回轉の影もなき者なり。二八 その造り給へる物の中にて我らを初穂のごとき者たらしめんとて、御旨のままに、眞理の言をもて我らを生み給へり。

一九 わが愛する兄弟よ、汝らは之を知る。さればおのおの聴くことを速かにし、語ることを遅くし、怒ること  
 二〇 を遅くせよ。二〇 人の怒は神の義を行はざればなり。二二 然れば凡ての穢と盜るる惡とを捨て、柔和をもて其の植ゑ  
 二三 られたる所の、靈魂を救ひ得る言を受けよ。二三 ただ御言を聞くのみにして、己を欺く者とならず、之を行ふ者と  
 二四 なれ。二三 それ御言を聞くのみにして、之を行はぬ者は、鏡にて己が生來の顔を見る人に似たり。二四 己をうつし見  
 二五 て立ち去れば、直ちにその如何なる姿なりしかを忘る。二五 されど全き律法、すなはち自由の律法を懇ろに見て離  
 二六 れぬ者は、業を行ふ者にして、聞きて忘るる者にあらず、その行爲によりて幸福ならん。二六 人もし自ら信心ふかき  
 二七 者と思ひて、その舌に響を著けず、己が心を欺かば、その信心は空しきなり。二七 父なる神の前に潔くして穢なき  
 信心は、孤兒と寡婦とをその患難の時に見舞ひ、また自ら守りて世に汚されぬ是なり。

第二章

一 わが兄弟よ、榮光の主なる我らの主イエス・キリストに對する信仰を保たんには、人を偏り視るな。二 金の指輪をはめ、華美なる衣を著たる人、なんぢらの會堂に入りきたり、また粗末なる衣を著たる貧しき者、いり來らん、三 汝等その華美なる衣を著たる人を重んじ視て「なんぢ此の善き處に坐せよ」と言ひ、また貧しき者に「なんぢ彼處に立つか、又はわが足下に坐せよ」と言はば、  
 四 汝らの中にて區別をなし、また惡しき思をもてる審判人となるに非ずや。五 わが愛する兄弟よ、聽け、神は世の貧しき者を選びて信仰に富ませ、神を愛する者に約束し給ひし國の世嗣たらしめ給ひしに非ずや。六 然るに汝らは貧しき者を輕んじたり、汝らを虐げ、また裁判所に曳くものは、富める者にあらずや。七 彼らは汝らの上に稱へらるる尊き名を汚すものに非ずや。八 汝等もし聖書にある「おのれの如く汝の隣を愛すべし」との尊き律法を全うせば、その爲すところ善し。九 されど若し人を偏り視ば、これ罪を行ふなり。律法、なんぢらを犯罪者と定めん。一〇 人、律法全體を守るとも、その一つに躓かば、是すべてを犯すなり。二 それ「姦淫する勿れ」と宣給ひし者、また「殺す勿れ」と宣給ひたれば、なんぢ姦淫せずとも、若し人を殺さば律法を破る者となるなり、三 なんぢら自由の律法によりて審かれんとする者のごとく語り、かつ行ふべし。四 憐憫を行はぬ者は、憐憫なき審判を受けん、憐憫は審判にむかひて勝ち誇るなり。

一四 わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言ひて、もし行爲なくば何の益かあらん、斯る信仰は彼を救ひ得ん

- イ雅一・一六を見よ
- ト雅二・二二
- ハ(ホ一・二二) 徒一〇・三四を見よ
- ニ雅二・九
- 三雅一・一六を見よ
- ホ雅二・三(路三・三)
- 一(伯三四・一九)
- ヘ雅三・三、四
- ト雅二・二
- チ(路一八・六) 約七
- リ雅一・一六を見よ
- ヌ雅一・二七、二八
- ヘ(伯三四・一九)
- ル(路二二・二一) 黙二
- タ利一九・一八
- ワ太五・三及び二五
- カ徒一六・一九を見よ
- ヨ(彼前四・一六) 徒一
- 一・二六
- レ太七・二二(雅四・九)
- ソ(雅二・一九)
- ツ雅二・二を見よ
- ネ申一・二七
- ナ雅三・二 彼後一・一〇 猶二四
- ラ(加五・三) 太五・一
- ム出二〇・一四 申五
- ウ出二〇・一三 申五
- オ雅一・一六を見よ
- ナ雅一・二五を見よ
- ノ(彼二・一三) 太一
- ハ・三二—三三(雅三・一七、二五)
- 三・一七、太五・七
- 路六・三七、三八)
- オ雅一・一六を見よ
- ク雅二・一四を見よ
- ケ雅二・一四を見よ
- フ雅二・二〇、二六(加五・六)
- ヤ大二五・三五、三六(路三・一一)
- マ約三・一七、一八
- ケ雅二・一四を見よ
- フ雅二・二〇、二六(加五・六)

コ羅九・一九を見よ 五・六  
 エ雅二・一七 羅三・一  
 二八、四・六 サ申六・四 (可二二・  
 (來二・三三三) 二九)  
 ナ太七・一六、一七 加キ(雅二・八)  
 ユ太八・二九 可一・ 五・三六  
 二四、五・七 路四・ 七(撒前二・三)  
 三四(徒一九・一) シ創三三・九、一〇、一  
 二、一六、一八 二、一六、一八  
 ヌ來二・一七(約六) セ代下二〇・七 泰四  
 八雅二・一四、三・一 ホ雅二・一〇を見よ  
 〇、二二  
 二太三三・八(羅三・  
 二〇)二一 提前一  
 ト(雅一・四)  
 チ(雅一・二六)  
 リ詩三三・九

一六五 や。一五もし兄弟或は姉妹、裸體にて日用の食物に乏しからんとき、一六 汝等のうち或人これに『安らかにして  
 往け、温かなれ、飽くことを得よ』といひて、體に無くてならぬ物を與へずば、何の益かあらん。一七 斯のごとく  
 一八 信仰もし行爲なくば、死にたる者なり。一八 人もまた言はん『なんぢ信仰あり、われ行爲あり、汝の行爲なき信仰  
 一九 を我に示せ、我わが行爲によりて信仰を汝に示さん』と。一九 なんぢ神は唯一なりと信するか、斯く信ずるは善し、  
 二〇 悪鬼も亦信じて慄けり。二〇 ああ虚しき人よ、なんぢ行爲なき信仰の徒然なるを知らんと欲するか。二一 我らの父  
 二二 アブラハムはその子イサクを祭壇に獻げしとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。二三 なんぢ見るべし、その  
 二三 信仰、行爲と共にはたらき、行爲によりて全うせられたるを。二三 またアブラハム神を信じ、その信仰を義と認め  
 二四 られたりと云へる聖書は成就し、かつ彼は神の友と稱へられたり。二四 斯く人の義とせらるるは、ただ信仰のみに  
 二五 由らずして行爲に由ることは、汝らの見る所なり。二五 また遊女ラハブも使者を受け、これを他の途より去らせ  
 二六 たるとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。二六 靈魂なき體の死にたる者なるが如く、行爲なき信仰も死に  
 たるものなり。

### 第三章

一 わが兄弟よ、なんぢら多く教師となるな。教師たる我らの更に厳しき審判を受くることを、汝ら  
 二 知ればなり。二 我らは皆しばしば躓く者なり、人もし言に蹉跌なくば、これ全き人にして全身  
 三 に轡を著け得るなり。三 われら馬を己に馴はせんために轡をその口に置くときは、その全身を馭し得るなり。  
 四 また船を見よ、その形は大きく、かつ激しき風に追はるるとも、最小き舵にて舵人の欲するままに運すなり。

五 斯のごとく舌もまた小きものなれど、その誇るところ大なり。視よ、いかに小き火の、いかに大なる林を燃すかを。六 舌は火なり、不義の世界なり、舌は我らの肢體の中にて、全身を汚し、また地獄より燃出でて一生の車輪を燃すものなり。七 獸・鳥・匍ふもの・海にあるもの等、さまざまの種類みな制せらる、既に人に制せられたり。八 されど誰も舌を制すること能はず、舌は動きて止まぬ惡にして死の毒の満つるものなり。九 われら之をもて主たる父を讃め、また之をもて神に象りて造られたる人を詛ふ。一〇 讚美と呪詛と同じ口より出づ。わが兄弟よ、斯る事はあるべきにあらず。一一 泉は同じ穴より甘き水と苦き水とを出さんや。一二 わが兄弟よ、無花果の樹、オリブの實を結び、葡萄の樹、無花果の實を結ぶことを得んや。斯のごとく鹽水は甘き水を出すこと能はず。一三 汝等のうち智くして慧き者は誰なるか、その人は善き行狀により柔和なる智慧をもて行爲を顯すべし。一四 されど汝等もし心のうちに苦き妬と黨派心とを懷かば、誇るな、眞理に悖りて偽るな。一五 斯る智慧は上より下るにあらず、地に屬し、情慾に屬し、惡鬼に屬するものなり。一六 妬と黨派心とある所には亂と各様の惡しき業とあればなり。一七 されど上よりの智慧は第一に潔よく、次に平和・寛容・温順また憐憫と善き果とに満ち、人を偏り視ず、虚偽なきものなり。一八 義の果は平和をおこなふ者の平和をもて播くに因るなり。

第四章

一 汝等のうちの戦争は何處よりか、分争は何處よりか、汝らの肢體のうちに戦ふ慾より來るにあらずや。二 汝ら食れども得ず、殺すことをなし、妬むことを爲れども得ること能はず、汝らは争ひ、

イ(詩一二・三、四、七 一九(太一二・三六、一七(太七・一六) リ(太七・一六) ヲ多三・九  
 三・八、九) 三七) 又彼前二・一五(彼前 一八 提前二・四) 一八 提前四・一 獸二・ 六  
 口(彼三六・二〇、二 本太五・二二を見よ 二・一二) カ雅一・一七を見よ 二(四) 彼前二・一八 二・二七 何一〇・ 一  
 一) 八詩一二〇・三、四 一) へ詩一四〇・三 羅三 ル(雅二・一八) ヨ(野前二・六、三、一 ツ雅三・一五 一二 歴六・一二 一  
 一六・二七 ト(雅一・二七) 雅三・一六 羅二・八 九) 夕雅三・一五 一三) 雅一・一一(加六、 八)  
 二太一五・一一、一八、 子野前二・一七を見よ 二〇) 夕雅一・一(野後一・一 二) 夕雅一・一(野後一・一 二) 夕雅二・一を見よ

マ(約三・二二、五、エ太六・二四、約一五  
 一四) 一九約三・一五 キ三三・三四 彼前五  
 ケ賽五四・五耶二・二 テ哥前六・一九 哥後  
 結一六・三二 六・二六(耶三・一  
 太二二・三九) 四 何二・一九、二  
 フ雅一・二七を見よ  
 コ羅八・七(約三・二  
 一五) ア(民二三・一九) ユ(彼前五・六)  
 ナ賽五四・七八(太 彼前五・八、九弗四  
 二七、六・一一、一 ヒ耶四・二四(雅三・  
 一七 彼前一・二二 ス雅五・七、九、一〇  
 約三・三三) (雅一・二六) ト太一〇・二八  
 代下一五・二 亞一 約三・三三) 約三・三三) 約三・三三) 約三・三三)  
 三 馬三・七 來七 七 路六・二五 彼一四  
 一九を見よ 二 三三(尼八・九) 前二・一(雅五・九)  
 シ賽一・一六(伯一七 七 彼前五・六(雅四・  
 九 提前二・八) 六 伯五・一一 結  
 二・二六 路一 八(雅二・八)  
 二(雅一・二二) 二(雅一・二二) 二(雅一・二二)  
 五二) ホ賽三三・二二 ル(詩一〇二・三、伯七  
 七 詩三九・五、

また戦す。汝らの得ざるは求めざるに因りてなり。三 汝ら求めてなほ受けざるは、慾のために費さんとて妄に求むるが故なり。四 姦淫をおこなふ者よ、世の友となるは、神に敵するなるを知らぬか、誰にても世の友とならんと欲する者は、己を神の敵とするなり。五 聖書に「神は我らの衷に住ませ給ひし靈を、妬むほどに慕ひたまふ」と云へるを虚しきことと汝ら思ふか。六 神は更に大なる恩恵を賜ふ。されば言ふ「神は高ぶる者を拒ぎ、謙だる者に恩恵を與へ給ふ」と。七 この故に汝ら神に服へ、悪魔に立ち向へ、さらば彼なんぢらを逃去らん。八 神に近づけ、さらば神なんぢらに近づき給はん。罪人よ、手を淨めよ、二心の者よ、心を潔よくせよ。九 なんぢら惱め、悲しめ、泣け、なんぢらの笑を悲歎に、なんぢらの歡喜を憂に易へよ。一〇 主の前に己を卑うせよ、然らば主なんぢらを高うし給はん。

二 兄弟よ、互に誘るな、兄弟を誘る者、兄弟を審く者は、これ律法を誹り、律法を審くなり。汝もし律法を審かば、律法をおこなふ者にあらずして審判人なり。二 立法者また審判者は唯一人にして、救ふことをも滅すことをも爲し得るなり。なんぢ誰なれば隣を審くか。

一三 聽け「われら今日もしくは明日それがしの町に往きて、一年の間かしこに留り、賣買して利を得ん」と言ふ者よ、一四 汝らは明日のことを知らず、汝らの生命は何ぞ、暫く現れて遂に消ゆる霧なり。一五 汝等その言ふところ易へて「主の御意ならば、我ら生きて此のこと或は彼のことを爲さん」と言ふべきなり。一六 然れど今なんぢ

一七 らは高ぶりに誇る、斯のごとき誇はみな悪しきなり。一七 人善を行ふことを知りて、之を行はぬは罪なり。

第五章

一 聽け、富める者よ、なんぢらの上に来らんとする艱難のために泣きさげべ。二 汝らの財は朽ち、汝らの肉を蝕はん。汝等この末の世に在りてなほ財を蓄へたり。四 視よ、汝等がその畑を刈り入れたる労働人に

拂はざりし値は叫び、その刈りし者の呼聲は萬軍の主の耳に入れり。五 汝らは地にて奢り、樂しみ、屠らるる日に在りて尙おのが心を飽せり。六 汝らは正しき者を罪に定め、且これを殺せり、彼は汝らに抵抗することなし。

七 兄弟よ、主の來り給ふまで耐忍べ。視よ、農夫は地の貴き實を、前と後との雨を得るまで耐忍びて待つなり。八 汝らも耐忍べ、なんぢらの心を堅うせよ。主の來り給ふこと近づきたればなり。九 兄弟よ、互に怨言をいふな、恐らくは審かれん。視よ、審判主、門の前に立ちたまふ。一〇 兄弟よ、主の名によりて語りし預言者たち

を苦難と耐忍との模範とせよ。二 視よ、我らは忍ぶ者を幸福なりと思ふ。なんぢらヨブの忍耐を聞けり、主の彼に成し給ひし果を見たり、則ち主は慈悲ふかく、かつ憐憫あるものなり。

三 わが兄弟よ、何事よりも先づ誓ふな、或は天、あるひは地、あるひは其の他のものを指して誓ふな。只なんぢら然りは然り否とせよ、罪に定めらるる事なからん爲なり。

二三 汝等のうち苦しむ者あるか、その人、祈せよ。喜ぶ者あるか、その人、讚美せよ。一四 汝等のうち病める者

- イ 哥前五・六 約壹二 ホ賽一三・六、一五、一六
- ロ (路一二・四七 約九 へ伯一三・二八 賽五・四一 彼後二・二)
- ハ 雅四・二三 二路六・二四 (提前六 九)
- ニ 雅五・七、八 二路一六・一九 彼後二・二三 (結一六・四九 提前五・六)
- 三 結三〇・二
- リ 申二四・一五 伯三
- 四 一・三八 (出二・二)
- 五 羅九・二九
- 六 路一六・一九 彼後二・二三 (結一六・四九 提前五・六)
- 七 二・二三 馬三・五
- 八 耶一三・三、二五
- 九 申一・一四 耶五
- 一〇 耳二・二三
- 一一 雅五・七を見よ
- 一二 雅四・二二 來一二
- 一三 彼前四・五
- 一四 伯一・二二、二二
- 一五 二・一〇
- 一六 哥前四・五
- 一七 太二四・三三 可一
- 一八 ケ伯四二・一〇、一一
- 一九 出三四・六 詩一〇
- 二〇 三・八
- 二一 雅一・一六を見よ
- 二二 太五・一〇 彼前三
- 二三 雅五・一〇
- 二四 雅五・一〇
- 二五 詩五〇・一五
- 二六 西三・一六 (哥前
- 二七 一四・一五)

半徒一・三〇を見よ (雅五・二〇)  
 二可六・二三(可一六) シ約六・三九を見よ  
 ・二八) 哥後四・一四  
 二太三・六 可一・五  
 二雅一・六) 徒一九・一八  
 二來二二・一三 彼前  
 二・二四  
 二一八・二三―三三  
 等 約九・三一を見よ  
 一王上二八・四二  
 二王上二八・四二  
 二王上二八・四五  
 二雅五・二二  
 二太一八・二五 加六  
 二雅一・二一、二四 及び  
 二雅一・二二を見よ  
 (雅一・二一、五・一)

一五 あるか、その人、教會の長老たちを招け。彼らは主の名により其の人に油をぬりて祈るべし。一五さらば信仰  
 一六 の祈は病める者を救はん、主かれを起し給はん、もし罪を犯しし事あらば赦されん。一六この故に互に罪を言ひ  
 一七 表し、かつ癒されんために相互に祈れ、正しき人の祈ははたらきて大なる力あり。一七エリヤは我らと同じ情を  
 一八 もてる人なるに、雨降らざること切に祈りしかば、三年六ヶ月のあひだ地に雨降らざりき。一八斯て再び祈りた  
 一九れば、天雨を降らし、地その果を生ぜり。  
 二〇 わが兄弟よ、汝等のうち眞理より迷ふ者あらんに、誰か之を引回さば、二〇その人は知れ、罪人をその迷へ  
 二一 る道より引回す者は、かれの靈魂を死より救ひ、多くの罪を掩ふことを。

ヤコブの書 をはり

二・四 或は「汝ら心の中に矛盾あり」と譯す。